

### 1. 「学習指導要領の趣旨の実現」の見届けと教育条件の整備の重要性

- ・ 今の学習指導要領の前文と総則は大変良くできている。「社会に開かれた教育課程」「教科等横断的な視点を重視したカリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」などの優れたコンセプトを「絵に描いた餅」に終わらせるのではなく着実に定着させていくことが肝要。前文や総則は大きく変えずに定着をねらう。
- ・ 今後の学習指導要領を教室に届けるための大きな課題は、前文や第1章総則の世界を、第2章の各教科等の指導にしっかりとつなげ、「教師主導の授業」から「子供主体の授業」へ、「教科書を教えこむ授業」から「教科書で子供の力を引き出す授業」へと授業の転換を図ることが大切。
- ・ 学習指導要領を見直すならば、それを支える教育条件を見直すことも大切。例えば、教科書も学習指導要領が目指す資質・能力の育成を強力にアシストし、教科書「で」教えざるを得ないようなものに進化させることはできないか。

### 2. 変化する社会の動きを教室にー教師のマインドセットの問い直しー

- ・ 産官学の多くの方から共通して指摘されるのは、
  - ・ 教育村、学校村での学びは社会と繋がっておらず、学校で習っていない問題になると途端に解けなくなってしまう傾向にある。
  - ・ 学校だけでなく教育委員会も、地域や企業など外部人材に口出しされることをあまり歓迎しない文化がまだ全国的に根強い。
  - ・ 学びは学校の中だけでは完結しない、ということを教師が理解していないのではないか、など。
- ・ 教師の数を増やすことも大切だが、変化する社会の動きを教室の中に取り入れる「進取の精神」をもって仕事をする教師集団をつくることも大切であり、こうした方策も議論が必要。

### 3. 継往開来の精神でスクラップ&ビルドを

- ・ 過度に「みんなで同じことを、同じペースで、同じようなやり方で」教育していることが「落ちこぼれ・吹きこぼれ」を生み出し、「一律・一斉・一方向型の教育」から脱して、子供たち一人一人の興味・関心や能力等に応じて、場所、進度、時間割、教材等の個別化を積極的に進めることが重要。この具体策の議論も急務。その際、教えるべきはしっかり教え、考えさせるべきはじっくり考えさせたり、資質・能力をバランスよく育成したり、教科等を学ぶ本質的な意義を学んだり、と評価の高い「日本型教育」のお家芸にも、改めて光を当ててアップデートしていくことも大切。